

阿建第 3132 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省 道路局長 殿

阿波市長 小笠原 幸



今後の道路行政についての意見・提案書について（送付）

標題の件につきまして、別紙のとおり提出いたします。

①・道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

道路は市民の暮らしを支える重要な社会基盤であり、交通機関の限定された地方においては、まさに生命線となっている。

とりわけ、阿波市では、市町村合併後の旧町間の連絡道路、高齢社会に対応した地域医療、福祉を支える道路、台風などの災害や近い将来高い確率で発生するとされる東南海・南海地震に備えた「命の道」となる緊急輸送道路の早期整備など、解決にあたらなければならない課題が数多くある。

こうした中、本市では、これまで、道路特定財源に加え、多額の一般財源を充当し、必要な道路整備を進めてきたにもかかわらず、地形が急峻であり地質も脆弱な、台風襲来地帯という厳しい自然条件により、道路整備は依然として非常に遅れており、都市部との地域間格差が縮まっていない状況である。

このため、地方の道路整備を着実に推進するとともに、適切な維持管理を図るためには、引き続き、道路整備財源の十分かつ安定的な確保が不可欠である。

よって、中期5カ年計画の策定にあたっては、つぎのことを要望します。

- 1 地域間格差是正の観点から、地方にとって真に必要な道路整備が着実に進められるよう、道路特定財源の一般財源化にあたり地方財源の充実強化になる制度設計とすること。
特に、地域の道路整備を支えている「地方道路整備臨時交付金」を存続・拡充しこれまで以上に地方の道路整備財源の「優先確保」を図ること。
- 2 地方にとって、「真に必要な道路整備」を新たな「道路整備計画」に明確に位置付け、その整備を着実に推進すること。
- 3 本州四国連絡道路の整備効果を生かし、地域の活性化を図るため、必要な財源を確保し、料金引き下げや割引導入など、抜本的な料金体系の見直しを行うこと。
- 4 地域経済の活性化と観光・交流をより一層推進するため、「四国8の字ネットワーク」の早期整備を図るとともに、暫定2車線区間の4車線化を図ること。
- 5 「東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別処置法」で指定される地域における地震対策の重要性・緊急性を十分配慮し、緊急輸送道路の整備を推進するとともに、橋梁の耐震補強等の対策を推進すること。
- 6 今後、橋梁等の道路施設が急速に老朽化することを踏まえ、道路網の安全性及び耐久性を確保するため、適時適切な修繕等を行えるよう必要な財源を確保すること。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

道路・交通網は、交流を促進するとともに、便利な日常生活や活力ある産業活動を支える重要な社会基盤であるとともに、災害時の緊急輸送や避難など、まさに命の道である。

本市の道路網は、国道 318 号、主要地方道津田川島線・志度山川線・鳴門池田線を中心に国道 1 路線・県道 13 路線・市道 2,669 路線、実延長 1,017.8km によって構成されている。

また、高速交通網として四国縦貫自動車道が横断し、土成インターチェンジ・阿波パーキングエリアが設置されている。

本市の道路・橋梁については、整備されてから年数が経過しており、老朽化が進んでいる、特に橋梁については長寿命化・耐震化事業を今後、進めていかなければならない。

また、平成 17 年 4 月 1 日に吉野町・土成町・市場町・阿波町が合併したが、旧町間を結ぶ連絡道路が整備されていないのが現状である。

○課題

本市では国・県と連携しながら道路網の整備を計画的に進めてきたが、交通量の増加や車両の大型化・高齢化社会などにより、より一層安全で便利な道路網・道路環境の整備が求められている。

また、四国縦貫自動車道を十分に利用できる条件整備、幹線道路の整備など、全市的な活性化に向けた道路体型の確立が必要である。

市道路の舗装率については 89%・改良率は県道 46%・市道 63%と低く、今後改良を進めていかなければならない。

橋梁については市内 614 橋の内 113 橋の橋梁点検を行い、次年度以降、長寿命化・落橋防止事業を実施しなければならない。

以上のことから、今後は、広域的な幹線道路から身近な生活道路に至るまで市内道路網の計画的な整備に取り組むとともに、環境と人に優しい道路空間づくりなど、国・県と連携しながら、市の道路整備 5 力年計画を策定する。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

新生阿波市においては第一次総合計画を策定し主要施策の基本目標として、人が輝くまちづくり・安心安全のまちづくり・美しい環境のまちづくり・生活基盤の充実したまちづくり・産業が発展するまちづくり・共に生き、共に築くまちづくりに向けた施策を実施し、真に必要な道路整備を目指しています。

公共交通機関の無い本市においては、道路は生命線であり、台風などの災害や東南海・南海地震発生時に寸断されない道路網の構築が必要とされています。また高齢化社会に対応した地域医療・福祉を支える道路、国道や主要県道にアクセスしている幹線道路・地域の生活道路などの整備。

次に、本市の基盤産業である農業生産、特に生鮮野菜の京阪神市場への輸送道路の整備。また、吉野川を望む豊かな自然とともに、国の天然記念物「阿波の土柱」や世界遺産登録を目標としている「四国霊場札所」などが点在しており観光資源活用のための道路整備など地域経済活性化と交流を推進するため四国縦貫道の4車線化を目指し、環境と人にやさしい街づくりを進めていきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<p>・大規模な地震 強い国土づくり</p> <p>・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化</p>	<p>総合的な交通安全対策及び危機管理の強化については、大規模な災害等に備え、平成17年度～平成19年度にかけて阿波市の主要道路の橋梁耐震工事(2橋)を行いました。</p> <p>また、平成20年度では14m以上(113橋)の橋梁点検を実施し、橋梁の健全度を把握します。</p>	<p>期待する効果として、阿波市が管理する橋梁の長寿命化修繕計画を策定することにより、計画的・効率的な維持管理を実施し、重要な道路ネットワークの安全性及び信頼性を確保します。</p>	
<p>・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成</p>	<p>少子・高齢化が進んでいる現在、子育て環境も踏まえた主要道路における自歩道整備事業を実施しています。</p> <p>幼児から高齢者にいたるまで、交通弱者への配慮が必要になってきている中、通行しやすい幅の広い歩道、段差のない歩道整備を行っています。</p>	<p>自歩道整備事業を実施することにより、幼児から高齢者のライフラインの安全を確保します。</p> <p>また、車道と自歩道の区別により、自動車の通行もスムーズになり、交通事故の減少も図られます。</p>	